

まだまだできる
ごみ減らし

『可燃ごみの巻』

ごみゼロ新聞調査隊が行く

生ごみは有機肥料になります



家庭から出される可燃ごみの約4割を占める生ごみ。生ごみは、水分を多く含むため燃えにくく、焼却灰の量を増やすことにもなります。焼却するのではなく家庭で処理すれば、花や家庭菜園などの堆肥として有効利用できます。

今回は、家庭で生ごみを処理するための「生ごみ処理機器」について調査しました。

生ごみ処理容器

品名	処理方法	使用のポイント
ぼかし処理容器	<ol style="list-style-type: none"> ①よく水切りした生ごみにぼかしをふりかける ②蓋をし発酵させ、蓋がふくらんだらガス抜きをする ③①、②をくり返し一杯になったら日陰で1～2週間熟成させる 	<ul style="list-style-type: none"> • 容器がコンパクトなので軒下などに置くことができる • 3人家族の場合1つの容器で2週間程使えるので、容器は2～3個必要 • 臭いが少ない • 生ごみ1kgに対して10～20gのぼかしが必要（夏は多めがよい）
コンポスト	<ol style="list-style-type: none"> ①コンポストを土に埋める（20～30cm程度） ②よく水切りした生ごみと土を交互に入れる（ぼかしを混ぜてもよい） 	<ul style="list-style-type: none"> • 畑や庭などに設置する • 堆肥になるのに時間がかかるが容器が大きく処理量が多い • 虫の発生を抑えるため生ごみを入れるたびに土を厚めに被せる • 臭いや虫が発生することがある
段ボールコンポスト	<ol style="list-style-type: none"> ①厚めの段ボールに新聞紙（1日分）を敷き、腐葉土5kgと米ぬか3kgを入れる ②①によく水切りした生ごみと米ぬかをひとつかみ入れる ③水分蒸発のため蓋はせず、虫除けにレースの布などでカバーする 	<ul style="list-style-type: none"> • 経費がかからない • 雨がかからず風通しの良い場所に置く • 生ごみと一緒に必ず米ぬかを入れる • 虫が発生することがある • 2～3ヶ月たったら発酵しなくなるので、中身を袋などに移しかえる（1ヶ月ほど熟成させ堆肥として使える）

※詳しい使い方などの問い合わせは環境事業所まで



ぼかし処理容器



コンポスト



段ボールコンポスト